

南野利久 (ミナミノ トシヒサ)

株式会社メディカルー光社長



調剤薬局事業を中心とした 積極的な投資により業容拡大

◆2008年2月期中間決算概要

売上高は前年同期比10億77百万円増の70億3百万円となり、営業利益率、経常利益率共に0.9ポイント上昇した。経常利益は同84百万円増の2億34百万円となり、中間純利益は同1億21百万円増の1億10百万円となった。なお昨年は減損会計による特別損失を1億26百万円計上している。

貸借対照表では、無形固定資産が89.8%伸びている。これには、M&Aで取得した山梨薬剤センターの資産とのれん代5億62百万円が含まれている。

通期売上高計画は、調剤薬局事業が、M&Aで取得した子会社が寄与することと既存店が好調に推移していることから前期比19億50百万円増とした。医薬品卸事業と不動産事業は当初の計画通りである。連結で売上高145億円、経常利益4億63百万円を計画している。

1店舗当たりの年商は、1999年に8,650万円であったが、2008年は約2億円を計画している。1999年当時は開業医中心のマンツーマン薬局が主流であったが、ここ数年は総合病院前の薬局に注力し、年商数億円の大型店舗の開発とM&Aの効果によって1店舗当たりの年商は増加している。出退店状況は、M&A1店舗、三重県で出店1店舗、奈良県で退店1店舗であり、前期比1店舗増の68店舗になった。

M&Aを行った㈱山梨薬剤センターは、山梨県内ナンバーワンの売上を誇る薬局で、中間実績には8月度の1億15百万円の寄与であったが、下期は7億74百万円の寄与となり、来期は通期で13億円の上乗せとなる予定である。

昨年と今年で2社のM&Aを行ったが、調剤薬局事業の通期売上計画136億円のうちM&Aによる売上は17億74百万円、比率は13%である。営業利益は既存店8億56百万円に対してM&Aは2億16百万円、経常利益は既存店8億21百万円に対してM&Aが2億12百万円であり、比率はどちらも20%を超える。このことから、のれん代11億円は適正な金額といえる。

2008年2月期中間トピックスとして、3月に介護付有料老人ホーム「鳳光苑」の運営を島根県で開始した。4月にフラワー薬局寿店を三重県桑名市に開局した。5月にハウス食品(株)およびイオン(株)に第三者割当増資を実施した。6月に高齢者向け優良賃貸住宅「出雲鳳光苑」の運営を開始した。また昨年より開業準備をしていたHISAIメディカルモールは6月にすべてのクリニックが開業した。

第三者割当増資の引受先であるハウス食品とは、まだ具体的な商品開発には至っていないが、高齢者向け事業に関して相互に研究・検討を行うことにしている。当社の提携先としてハウス食品およびイオンは十分すぎるくらいの会社であり、このシナジー効果が出るのは、当社の売上規模が300億~400億円のスケールになった時であろう。

3月に開業した介護付有料老人ホームは43の居室を持ち、入居率は95%である。6月に開業した高齢者向け優良賃貸住宅は30の居室を持ち、入居率は66%といずれも計画を上回っている。

高齢化の進展に伴い、有料老人ホームの施設数、定員、在所者数は急激に伸びている。当社は、新しいビジネスモデルとして、既存の調剤薬局の近くにメディカルモールを開設しており、さらにその近くに有料老人ホームを開設する予定である。現在、準備を進めているが、今期中の運営開始は流動的である。

◆業界環境と中期経営計画

薬剤給付の現状を見ると、1993~2003年の11年間で薬剤費はほぼ同じ水準にあるが、薬剤比率は薬漬けは是正もあって低下している。このような中、製薬企業はグローバルな競争に巻き込まれている。低R&D投資の企業群は業績に極端なばらつきが見られる一方で、高いR&D規模の企業群は安定した生産性を維持している。2007年の「新医薬品産業ビジョン」によれば、製薬企業の将来像としては、メガファーマ、グローバルニッチファーマ、グローバルカテゴリーファーマ、ジェネリックファーマ、OTCファーマ、ベーシックドラッグファーマがあり、これらの種類の中で各製薬企業は生き残りをかけて今後激しい競争を展開していくと思われる。

これを受けて医薬品業界は、新規医薬品の薬価を高くし、長期収載品やジェネリック医薬品の薬価は抑制するという薬剤費構成を提案している。これは、グローバルな競争で生き残るために日本の薬価制度で支える必

要があるためだ。

医薬品卸業の経営状況については、1991年に12.7%であった売上総利益率は2003年には8.3%まで低下している。販管費率も同様に11.2%から7.4%に低下している。この一方で経常利益率は横ばいである。これは、卸業がこの間筋肉体質に変化したことを示していると思う。配達数量は増えているのに従業員数が減少しているので、卸業は効率の良い経営を迫られており、このようなことから卸業は合併により現在四つのグループに集約されている。

ジェネリック医薬品は、1999年に数量ベースで10%のシェアであったが、厚生労働省の誘導策により2004年には16.8%まで上昇した。2012年に30%まで増やすのが目標であるが、金額ベースでは10%となるので、7,000億~9,000億円の市場になると思われる。調剤については、医師が処方箋に「後発医薬品への変更可」と署名すればジェネリック医薬品に変更できるが、これは厚生労働省が予定したほど進んでいないのが現状である。しかし、調剤薬局はジェネリック医薬品に取り組むことにより、新たに利益を創出できる。例として約100億円の薬剤売上があり、このうちすべて先発品の場合、10億円が利益となるが、30%がジェネリック医薬品になると、利益が2億4,000万円増加する。

現在、ジェネリック医薬品の売上は伸び悩んでいるが、来年4月以降、厚生労働省が大きな誘導策を打ち出すと予想されるので、調剤薬局はさらにジェネリックへの取り組みを強化する必要がある。1店舗当たりの効率を高め、出店競争に巻き込まれずにM&A案件を選別しなければならないし、周辺事業のメニューをそろえて横への広がりを持つことでリスクを管理していかなければならない。

中期経営計画については、2008年2月期に売上高145億円、2009年2月期に155億円、2010年2月期に170億円を計画している。経常利益は、それぞれ4億63百万円、5億43百万円、6億円を計画している。

◆2008年2月期中間決算業績詳細

専務 西井文平

2008年2月期中間連結決算の変更点は、3月に不動産部門の一部である病院施設等をヘルスケア一光に移行したこと、島根県の有料老人ホーム2施設の運営を開始したこと、M&Aにより山梨薬剤センターが加わったことである。これによりグループは、連結会社は子会社5社、持分法適用会社1社となった。

投資については、全体投資額7億53百万円のうち、調剤薬局事業は店舗投資が40百万円、M&A投資が5億92百万円であり、新規事業としては介護事業に93百万円、メディカルモールに17百万円を投資した。今後の事業戦略としては「規模の拡大」、「事業の多角化」、「収益機会の多様化」、「資産の活用」を軸に成長を目指す。

貸借対照表では、調剤薬局の規模拡大により流動資産の現・預金、売掛金、棚卸資産が増加した。固定資産は、山梨薬剤センターの資産およびのれん代のほか、介護事業の差入保証金、投資有価証券が増加した。負債合計では、M&A資金を長期借入金で賄ったので借入金が増加した。純資産は、第三者割当による3億60百万円と中間純利益で4億42百万円増加した。

キャッシュフローでは、営業活動CFで34百万円を使用した。主な要因は、中間純利益や償却のほか、売上債権の増加、仕入債務の減少である。投資活動CFは9億51百万円を使用した。店舗用地等の有形固定資産の取得1億2百万円、子会社株式の取得2億99百万円、子会社への貸し付け4億1百万円が主な要因である。財務活動によって得られた資金は12億23百万円となった。長期借入金の増加9億75百万円と第三者割当増資による3億57百万円が主な要因である。現・預金の増加は2億37百万円となった。

既存店売上高は3億98百万円増加し、新店はM&A効果で伸びて、調剤事業全体で16.8%の売上増となった。処方せん枚数は5万4,000枚増加した。既存店については、総合病院前の薬局の売上が増加したのが要因である。2007年2月期には6店舗の出店があったが（そのうち3店舗はM&A）、これらの売上が3億96百万円増加した。

病院と診療所を合わせた処方せん単価は前年比1枚当たり500円上昇している。内訳は薬剤料が495円、技術料が5円である。病院では、長期投薬が進んでいるため単価の増加幅が大きい。当社でも、全体に占める病院の割合が上昇しているため、1枚当たりの薬剤料が上がり、これが売上増につながっている。

2008年2月期の通期売上は、調剤薬局事業で136億28百万円（前期比19億50百万円増）、医薬品卸事業はジェネリック利用促進策により今期も増収を見込んでいる。不動産事業は、今年1月からビジネスホテルの一括賃貸を開始しているため、賃料収入40百万円弱が増収になっている。介護事業は有料老人ホームの運営開始により売上を計上した。以上の結果、通期業績は、売上高145億円（前期比17.3%増）、経常利益4億63百万円（同17.2%増）、当期純利益2億16百万円（同1億70百万円増）を計画している。今期は、過去数年の投資が収益に結びついており、今後も収益性・採算性を考慮した積極的な投資を行っていきたい。

（平成19年10月18日・東京）